



なるほど
納得!

衣生活の知恵

汗まみれになるのに 「水洗い不可」はおかしい!

衣料品には取扱表示の縫いつけが義務づけられていますが、最近のTシャツの中には、ちょっと首をひねりたくなるものがあります。それは「水洗い禁止」の表示です。理由は、水に濡らすと色が変わったり、収縮、形態変化したりするといったことです。雨や汗で濡らしたり、水洗いできないTシャツが、どうして夏用の衣料といえるのでしょうか。



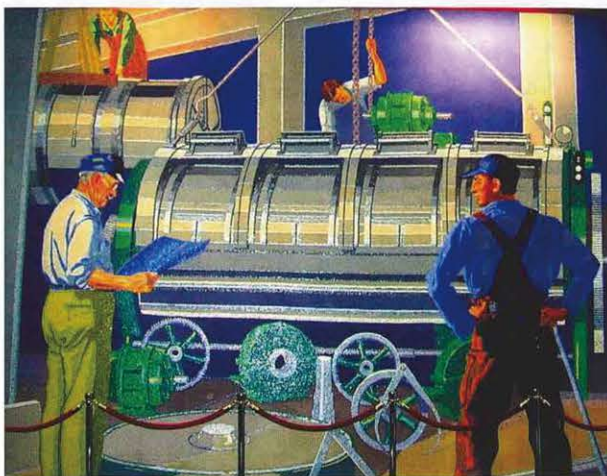
このようなTシャツでも、汚れのめだたない黒っぽいもので、数回程度の着用であれば、ドライクリーニングでも対応できます。汗を多く吸い取ったTシャツやサマーセーターなどは、「水洗い可」でなければ清潔さを保つことはできません。

衣料品は、ライフスタイルにあった取扱表示になっているかどうかを確かめてから購入しましょう。

「水洗い禁止」の表示がある製品でも、Ⓜ（ウエットクリーニング可）の表示があったら、プロのクリーニングで洗えるという意味ですから、必ずクリーニングに出すようにしてください。

絵画の中の洗濯風景

旧シンシナチ空港のモザイク壁画



蒸気洗濯機の製造工場風景

アメリカのオハイオ州旧シンシナチ空港のロビーに設置されていたウィノルド・リースによる巨大なモザイク壁画です。壁画に描かれているのは19世紀末以来、シンシナチの代表的な産業であった業務用洗濯機械製造工場の作業風景です。19世紀の初めにドライクリーニング技術が開発されて以来、商業クリーニングは、急激に産業化が進み、特にアメリカにおいては大規模な機械設備を装置した工場が建設されるようになりました。いち早く1868年に、シンシナチにおいて、A.M.ドルフとJ.H.スラックによって設立されたアメリカン・ランドリー・マシナリー社 (American Laundry Machinery Company) は、オハイオ州を代表する企業へと成長したのです。このモザイク壁画は、シンシナチの歴史を物語る記念として空港に飾られることになりました。しかし2016年にシンシナチ空港のリニューアルが行われ、この壁画は空港から撤去されてしまいました。



ALMの1896年のカタログより
Cincinnati Public Library

HomeDry News

ホームドライニュース No.110



- 絵画の中の洗濯風景:
旧シンシナチ空港のモザイク壁画
- 衣生活の知恵:
汗まみれになるのに「水洗い不可」はおかしい!
- 衣類のケア講座:
汗と衣類の関係を知っておきましょう



衣類のケア講座

汗と衣類の関係を 知っておきましょう

1. 汗の成分

汗の成分のほとんどは水です。しかし、衣服に付着した段階で水分は蒸発して、その他の成分が残留します。個人差はありますが、水以外に塩化ナトリウム＝塩分が約0.65%、尿素0.08%、乳酸0.03%などが含まれています。その他たんぱく質、皮脂、アンモニア、鉄分、カルシウムなどが含まれています。また体質や体調によっても異なり、食生活や服用中の医薬品によっても成分が異なってきます。

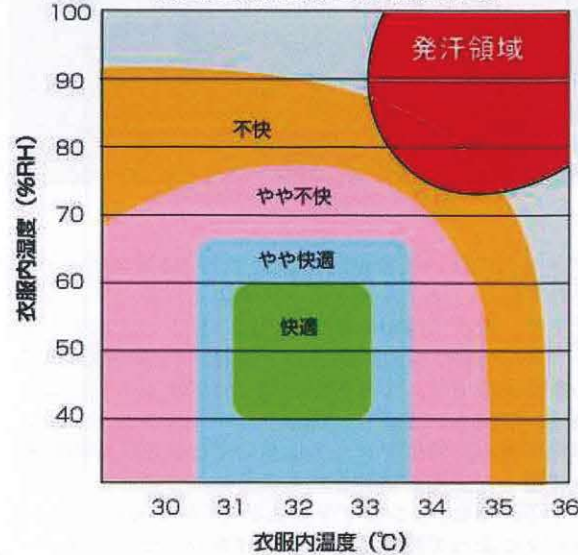


2. 汗成分の除去

汗は水に溶けだした成分が、全身の汗腺から分泌されます。このことから、水系処理(洗濯やウェットクリーニング)によって除去しなければなりません。たとえ、水洗い禁止の製品であっても、水系処理に耐えられるものでなければならないといえます。

汗成分が衣服に浸透すると、塩分によって生地が硬くなり湿っぽく重くなります。また分泌物として含まれるアミノ酸類などが酸化することによって異臭を放つようになります。つまり、硬い、重い、臭いということになってしまいます。

快適な衣服内気候の範囲(原田隆司)



上の図は、温度と湿度の関係から導き出される「発汗領域」を表しています。衣服内の温度は基本的に体温(36°C)による影響を受けている範囲ですから、この図からわかることは、温度の影響よりも湿度の影響が大きく、湿度70%を超えると汗をかくということがわかります。暑くなるほど湿度が高くなる日本では、ヨーロッパに比べまさに「汗だくの夏」ということになることがわかります。

3. 汗を吸収する素材と部位



一般的に、吸水性の高い素材に汗が集中します。綿、絹、麻、レーヨンなどの天然素材は、生地構造の深くまで汗成分が浸透することになります。

クリーニングに依頼される繊維製品のほとんどは外着であるといえます。このことから、下着によって汗が吸収されない部位に集中するといえます。上着であれば、襟周り、脇の下、袖口、スラックスでは太もも前部分やヒザ裏部分ということになります。また、異素材の組み合わせでは、吸水性の高い繊維に集中することになります。

